

令和6年度春の特別ラン展におけるテーマ展示「世界の珍ラン奇ラン」について

上野明楽・磯部実

2025年2月22日（土）から3月2日（日）まで開催された春の特別ラン展の空中デッキで実施したテーマ展示について報告する。

今年度は全体のテーマとしては「ランで魅せる色の世界」と題し、それぞれのテーマに沿った色のランを用いた装飾をした。一方で空中デッキのテーマ展示では、「世界の珍ラン奇ラン」と題し、植物園で保有するラン科植物の中から、花や株が特徴的なものを集め、解説文を付けて展示した。

展示花の紹介

葉を楽しむラン

近年知名度のあるランにジュエルオーキッドと呼ばれる葉を楽しむランがある。日本にも自生している地生ランと呼ばれる地面で生育するタイプのランであり、葉脈が輝いて見えることからその名がついた。アノエクトキルス属 (*Anoectochilus*)、ドッシニア属 (*Dossinia marmorata*)、マコデス属 (*Macodes sandariana*)、ルディシア属 (*Ludisia discolor*) の4属9種類を水槽に入れて展示した。

南米のランであまり知られていないペレクシア属 (*Pelexia olivacea*) もジュエルオーキッドのように葉を楽しむことができるため合わせて展示した。また、日本で江戸時代より葉を楽しむランとして栽培されている富貴蘭 (*Vanda falcata*) も展示した (写真1)。

花に擬態した花

ディウリス属 (*Diuris*) はオーストラリア西部に自生し、マメ科の植物に擬態し、本来ならそのマメ科の花に来る虫を呼んでいるといわれている変わった特徴を持つランである。この度開花していた株がありポリフォリア種 (*D. porrifolia*) を1株展示した。

何かに見えるランシリーズ

クリオネに似たラン

シルトキルム属 (*Cyrtorchilum*) の仲間は南米の高地に分布するランであり、比較的大型になる種類が多いが、暑がるため栽培されることが少ない。当園では3種類のシルトキルム属を栽培しているが、この中で最もよく咲くパルピフロム種 (*C. parviflorum*) が開花していたため、展示した。本種は唇弁 (リップ) の形状がクリオネに似ていることが園内で話題になっていたことがあり、パネルに付け加えると来園者に人気が出たため1株展示した。

クモに見えるラン

カラデニア属 (*Caladenia*) の仲間はオーストラリア西部に分布する地生ランである。花卉の広がり方がクモに見えることから英名スパイダーオーキッドと呼ばれる。ただし、この呼称は他のランにも使われるおり、当園で開花していたものは本属のみであったため、パリアンス種 (*C. varians*)、フィラメントサ種 (*C. filamentosa*) の2種類を展示した。

クモに見えるラン2

キロスキスタ属 (*Chiloschista*) は葉を落とし、根だけで光合成をする進化をしたランであり、同様の生活形態を持つ種は日本を含め世界中にいますが、本属は比較的栽培が容易で、観賞価値が高い。この度ビリディフラバ種 (*C. viriflava*) を1株展示した (写真2)。

花が長持ちのラン

デンドロビウム属 (*Dendrobium*) の中には長期間花を咲かせ、虫の密度が少ない環境でも虫の訪れを待つ種類がいる。中には4か月以上花が枯れないものもあるが、花持ちが良い種類のほとんどが高地に分布する種であり、耐暑性がほとんどなく、栽培が困難であるが、本園は冷房温室があり、栽培が可能である。この度はクスバートソニー種 (*D. cuthbertsonii*) とラエビフォリウム種 (*D. laevifolium*) の2種類を展示した。

植物公園の長老

1975年の開園以来数多くのランを栽培してきたが、開園当時から育てているランは数少ない。

その中の一つにバンドプシス属 (*Vandopsis*) がある。大型の着生ランであり、栽培されている株はあまり見かけない珍しいランである。

この度ギガンテア種 (*V. gigantea*) を1株展示した。

首を短くして待っています

パフィオペディラム属 (*Paphiopedilum*) は基本的に花径を長く伸ばして咲くものが多いが、同属の中でも花茎をほとんど伸ばさず開花するものがあるため、同属の花径が伸びるワーディ種 (*P. wardii*)、ハイナルディアヌム種 (*P. haynaldianum*) と比較してウェンシャネンセ種 (*P. wenshanensei*) をそれぞれ1株展示した (写真3)。

黒い花を咲かせます

黒に近い色の花を咲かせるランで知られているものはほとんどが人工的に作出した園芸品種であるが、マキシラリア属には野生で黒に近い花を咲かせるシュンケアナ種 (*M. schunkeana*) がおり、1株展示した。

長い距にご注目

アングレカム属 (*Angraecum*) の仲間は主に蛾を呼び、花粉を散布することが知られており、夜行性の蛾に気づいてもらうよう白い花が多く、夕方になると香り始める特徴がある。そして距と呼ばれる唇弁の奥にある蜜がたまった部分があり、その部分に届く長さの口を持つ蛾でないと花粉を運べない一対一の関係が知られている。この関係を証明しようと尽力した生物学者のチャールズダーウィンにちなんでダーウィンのランとも呼ばれる。この度はセスキペダレ種 (*A. sesquipedale*)、レオニス種 (*A. leonis*) の2種類3株を展示した (写真4)。

香りのランコーナー

空中デッキの中央に香りのあるランを集めて展示した。セロジネ属 (*Coelogyne*) ではクリスタータ種 (*C. cristata*)、グルマケア種 (*C. grumacea*)、カトレヤ属 (*Cattleya*) はルデマニアナ種 (*C. lueddemanniana*)、オンシディウム属 (*Oncidium*) ではケイロフォルム種 (*O. cheiropolum*)、シンビディウム属 (*Cymbidium*) ではトラシアヌム種 (*C. trachyanum*)、デンドロビウム属 (*Dendrobium*) ではスペシオスム種 (*D. speciosum*) を展示した

(写真5)。

虫メガネをご利用ください

香りのランコーナーの南西側に小さいランを並べて展示した。多くの種類が5mm程度の小さな花を咲かせるため、虫メガネを用意して展示した。展示した花は、青い花を咲かせるアペンディクラ属 (*Appendicula*) のマリンドンゲンシス種 (*A. malindangensi*) を1株展示した。中南米に広く分布し、ハナイカダのように葉の上に花を咲かせるプレウロタリス属 (*Pleurothallis*) はヘミルホダ種 (*P. hemirhoda*)、スクルラ種 (*P. scurrula*)、ゲオグラフィカ種 (*P. geographyca*)、プレウロタリス属に近縁でパラボラアンテナのような花を咲かせるステリス属 (*Stelis*) はココルナエンシス種 (*S. cocornaensis*)、不明種 (*S. sp*) を3種類4株展示した。ワインレッド色の小型の花を咲かせるトリセテラ属 (*Trisetella*) はディディマ種 (*T. didyma*) を1株、最も小さい花を咲かせるランの一つであるプラティステレ属 (*Platystele*) はオキシグロッサ種 (*P. oxyglossa*)、ポルティエラ種 (*P. portillae*) の2株、あずき色の小さな花を下向きに咲かせるマイオキサンサス属 (*Myoxanthus*) はロンコフィルス種 (*M. ronchophyllus*) を1株、モンキーオーキッドの呼称で知られているドラクラ属 (*Dracula*) はモプスス種 (*D. mopsus*)、ツボタエ種 (*D. tsubotae*)、アマリアエ種 (*D. amaliae*)、キロプテラ種 (*D. chiroptera*) を1株ずつ展示した (写真6)。

南米版ネジバナ

日本に自生する最も身近なラン科植物の一つであるネジバナ (*Spiranthes sinensis*) によく似た花を咲かせる南米のサイクロポゴン属 (*Cyclopogon congestus*) を2株展示した。

ランの中で一番の大家族

日本にも自生するマメヅタラン属 (*Bulbophyllum*) の仲間は世界で2100種類以上が記載されているラン科最大のグループであり、多種多様な花を咲かせることが知られている。この度小さい蚊に似た花を咲かせるテナクリフェルム種 (*B. tentaculiferum*) と毛の生えた花を咲かせるリンドレヤヌム種 (*B. lindleyanum*) の2株を展示した。

大きいランは好きですか？

中南米に自生するネオムーレア属 (*Neomoorea*) は、ラン科でも有数の大きな葉を持ち、ヒョウ柄の花を咲かせる変わったランである。この度ワリシー種 (*N.wallisii*) を1株展示した。

実は日本のランなんです

日本では沖縄県に自生するナリヤラン (*Arundina graminifolia*) は日本産のランとは思えないようなカトレヤに似た花を咲かせるランであり、一般的にはあまり知られていないためこの度2株展示した。

登っていくのがお好き

マキシラリア属の中には匍匐していく種と直立して育つ種があり、この度展示したエラチオール種 (*Maxillaria elatior*) は名前の由来がラテン語で「より高い」という意味合いであり、解説もつけて1株展示した。

所感と展望

今回の展示では、派手、華やか、といったランのイメージとは少し違った角度からランを楽しんでもらおうと思い、当園で栽培しているランの中からランらしさとは違ったものを展示した。当園では、ラン科植物の収集を始めて50年

が経とうとしている。これまでに集めた種類は約1500種類を超えるが、現在ラン科植物は世界に約28000種以上いるとされる。しかしそのほとんどが絶滅の危機に瀕している。すべてのランは菌との共生関係にあり、発芽後の生育環境に変化が起きると簡単に個体数を減らしてしまう。貴重な植物であると同時に、とても変化に富んでおり、この度のテーマにした「珍ラン奇ラン」は膨大な種類のランのほんの一握りに過ぎない。この不思議な植物の魅力を少しでもわかりやすく伝えていくことが園芸技師の使命であると感じ、一人でも多くの来園者にランの面白さ、大切さなどを周知し、広島県のランコレクションを通じて植物の多様性を知るきっかけになってもらいたいと強く願う。

これからもラン展を通じてランの魅力を発信し続けるとともに、ランをきっかけに植物の持つ魅力に気づいてもらい、また当園へ来園してもらえようような学びの場にしていく必要があると考えた。



写真1 葉を楽しむランの展示



写真2 キロスキシスタ属の展示



写真3 パフィオペディラム属の展示



写真5 香りのランコーナー



写真4 長い距を持つアングレカム属の展示

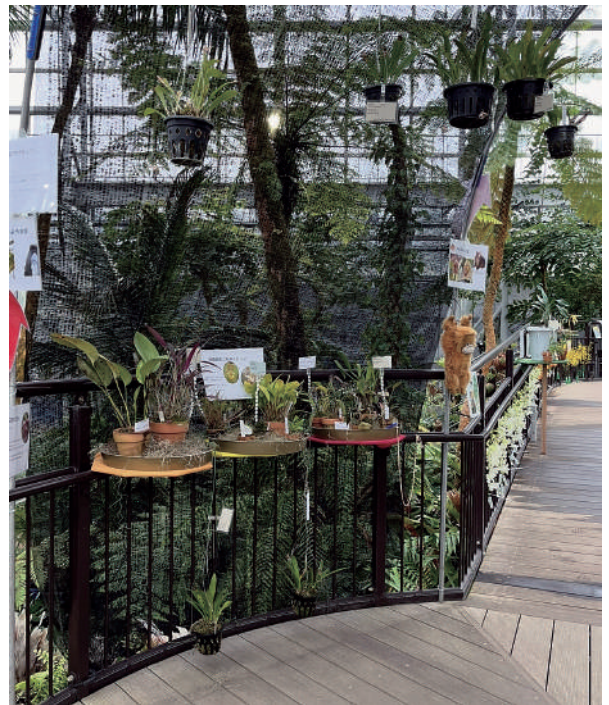


写真6 虫メガネコーナー